



みんなで作る

ふれあいの大屋根

“ビッグルーフ滝沢” 滝沢市交流拠点複合施設

住民が集う場として、大屋根の下、麓に出来た集落のように顔を出す様々な交流施設がにぎわいをつくれます。

ROOF NEWS Vol.14

※屋根の英単語 ROOF をとり、タイトルとしました。

平成 28.2.23 滝沢市（地域づくり推進課）

ROOF1 ビッグルーフ滝沢

工事が始まってから、1年半が経過し、いよいよ建物竣工、プレオープンの年を迎えました。

今年1月8日には滝沢市交流拠点複合施設の愛称が“ビッグルーフ滝沢”に決定しました。今回はその大屋根「ビッグルーフ」がどう創られてきたかを中心に紹介します。

ROOF2 大屋根の構造

北から南への緩い片流れ勾配の大屋根は、面積約4500平方メートルを有し、滝沢市のシンボルとして、秀峰 岩手山をイメージする力強い構造形態をデザインとしました。

また、建物内部のフレームを耐震性に優れたものとし、バランスの良い構造計画とすることで、外部の大屋根を支持する独立柱は極細の直径約20cmに、はね出し庇は約4mの長さの、繊細でダイナミックなデザインを実現します。無論、丈夫な鉄骨・下地鉄骨は、岩手山から吹き降ろされる厳しい風雪にも十分に耐えうる耐力を有していることは言うまでもありません。

鉄骨梁の上には、屋根を支える断熱補強されたデッキプレート、さらにその上には高耐候性のシート防水仕上げを行っております。シート防水については、将来のメンテナンス性、費用対効果、意匠性などを検討の上採用しました。大屋根のきれいな軒先のラインは、建物を印象付けるとても重要な部分なので、屋根のラインがきれいに出るよう、工場で正確に作成された金物で仕上げを行います。

現在、大屋根も含め建物全体は、仮囲いシートにより覆われ外からは見えませんが、大屋根の工事はほぼ完成しています。シートが外れ大屋根の全容が現れるのを、ご期待ください。



現在の大屋根の状況



大屋根を支える鉄骨の施工の様子



大屋根を支える独立柱とはね出し庇の施工の様子

ROOF3 現在の工事の状況と

これからの工事スケジュール

仮囲いシートの中では、着実に工事が進捗しており、工場で製作された外部用アルミサッシとガラス、外壁なども設置されており、建物の外形がほぼ完成されています。今後、外壁塗装など外部の仕上げ工が進みます。

建物内では、間仕切り壁や建具が設置され、その上に仕上げが施されるなど、内装工事が本格化します。同時に設備の機器や配管類、また舞台用の機器も施工されていきます。

今年は雪も少なく、予定通り順調に工事が進められています。



現在の敷地の様子

ROOF4 まとめ

これから、いよいよ建物の外部仕上が完成してきます。実際の建物の形・色が徐々に出来上がっていく様子も見るできるようになってきますので、大いに期待してください。

これからも、建物の工事の進み具合などを逐次、皆様へ ROOF NEWS でお知らせしていきますので、引き続きよろしくお願ひ致します。